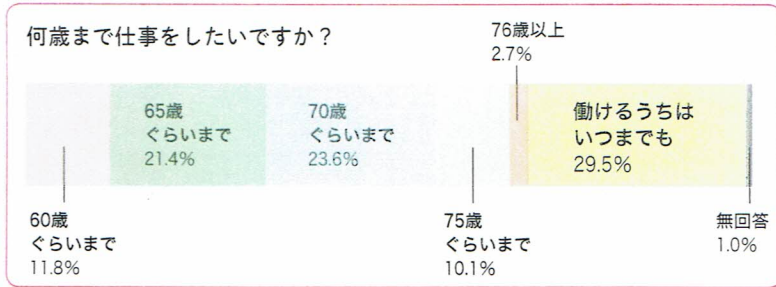


私たちは定年後も、こんなに働きたい！



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(2013年)より

「人生100年」は今や夢物語ではなく、現実だと語るのには、東京都主催の「東京セカンドキヤリア塾」講師も務める松本すみ子さん。

「寿命100年時代の人生戦略を記したリンダ・グラットン著『ライフシフト』によれば、2007年生まれの日本人の寿命は107歳！これまでのように人生を①学ぶ時期、②働いて家族や社会を支える時期、③リタイア後の3ステージで考えることは時代に合わなくなりました。いずれはリタイアの概念自体もなくなるかもしれないと松本さん。日本でも、高齢者雇用安定法の改正により望めば誰もが働ける時代となり、定年が70歳への引き上げも検討されている。内閣府の調査によれば、働く側も6割以上が70歳くらいまでは働きたいと答えている。

「今後は60歳を超えても、組織で緩やかに働きながら社会を支えたり、既存の枠を超えて起業したりと多様なステージが広がっていくでしょう」

現在も60歳以上の求職は少なくない。特に接客などの分野は引く手あまただという。なのに仕事がないと嘆くシニアが多いのは、それまでと同様の仕事内容や待遇、体裁を求めて欲張るからだと言います。

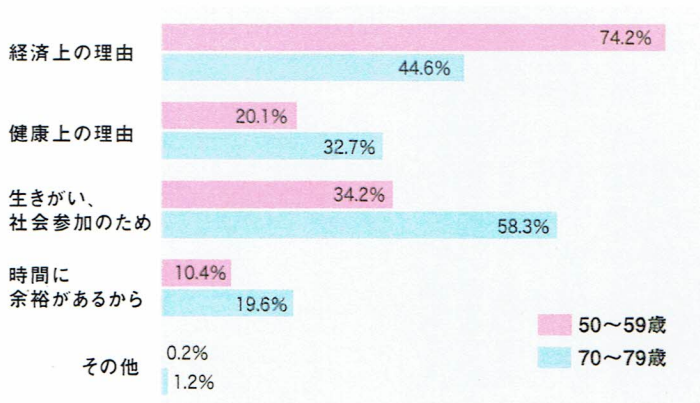
働く理由は50代と70代では大きく異なる。シニアになると経済上の理由からだけでなく、生きがいや社会参加を求めるように意識も変わる。

「まず自分が何をしたいか、働く上で何を大切に思うかを整理。これは自分を変え返るチャンス。ここで意識を変えることができたら、自分なりに納得した働き方と生き方を見つけて、経済的・精神的に自立した人生を全うできるはずですよ」

今なら、まだ間に合う！ 目指すは、**経済的・精神的に自立した60代、70代、80代。**

元気な限り、いつまでも。
これからは生涯現役がキホン。
人生100年時代を前に、60歳以降の就業環境は激変。50代での熟考が将来を大きく左右する！

定年後も働きたい理由



資料：厚生労働省「高齢社会に関する意識調査」(2016年)より

輝くシニアになりましょう



松本すみ子さん

まつもと・すみこ★シニアライフアドバイザー／IT企業勤務を経て2000年に50歳で独立。シニアへの提案や情報提供を手がける。『55歳からのリアル仕事ガイド』など著書多数。